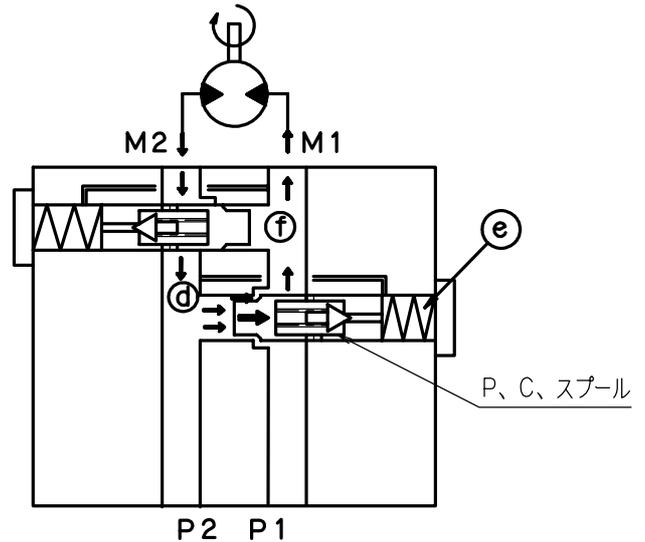
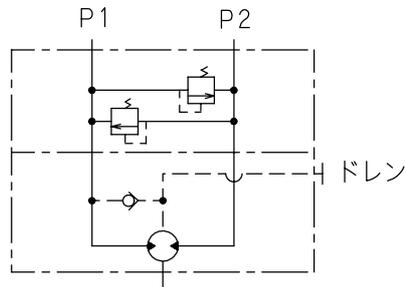


ブレーキ弁構造

回路図



作動説明

ブレーキ弁の作動

オイルモータ停止時、P 1 , P 2 が遮断された状態になります

モータには慣性力が働き、回り続けようとする為、戻り側 (M2) の (d) 部に高圧が発生し、(f) 部は油がなくなり真空状態となります。

この時、予めP、C、スプールの内に組み込まれている安全弁 (針弁、スプリング) により、設定圧力 ((d) 部と (e) 部は同圧) 以上になりますと、針弁が開き、オリフィス効果によりP、C、スプールが矢印方向に開き、(d) 部の圧油が真空状態の (f) 部に流れますので、異常高圧になるのを防ぐことができます。

又、この時、戻り側 (M2) に発生する圧力により、丁度ブレーキをかけた状態となり、モータは止まります。

この他、初速時等に発生する異常高圧も同様な原理で防 することができます。

本バルブの場合、P 1、P 2 どちら側にも、同じ作動能力を備えています。